

第五中学校は、第一小学校と第四小学校とともに、小中一貫教育を合同一体で行っています！

地域運営学校 八王子市立第五中学校

【教育目標】

- ◎ 人・地球との共生 〈より高い人間性をめざす人〉
- 未来社会への知性 〈学び続ける人〉
- 心身共に健康 〈健康で生命を大切にする人〉



学校だより

第6号 令和7年10月15日 水曜日

- 発行 八王子市立第五中学校 八王子市明神町4丁目19-1
- 代表電話 042-(642)-1633



第3学年 修学旅行 京都・奈良方面

平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにする。

(中学校学習指導要領 特別活動 学校行事 旅行・集団宿泊的行事より)



第3学年は9月23日、24日、25日の行程で2泊3日の修学旅行(京都・奈良方面)を行いました。実行委員を中心に、修学旅行のスローガン「三年間の集大成～頂点へ向かっていく姿～」をめざして主体的に学びを深められました。

※ 写真は、修学旅行初日の出発前の集会の様子です。



班行動から帰着の報告



シルバーガイドとともに班別行動



夕食はテーブルを囲んで楽しく

避難訓練 不審者対応訓練



①不審者2名が校内に侵入し、教室に向かったと想定、訓練開始。



②教職員は「さすまた」をもって複数人で不審者を追い込む。(不審者は大暴れ)生徒は教室の扉を封鎖して籠城。



③不審者を追い込んで確保



④もう1名の不審者も追い込み確保



⑤警視庁八王子警察署生活安全課防犯係刑事の方の指導・監修を基に、不審者確保の基本的な技術を身に付ける。



⑥不審者の確保後、体育館に避難し、点呼。八王子警察署の刑事の方から不審者対応の避難訓練について指導講評を受ける。

令和7年9月18日(木)に、避難訓練 不審者対応訓練を全教職員、生徒を対象に実施しました。この訓練は実戦さながらの訓練として実施しています。2001年6月8日に大阪教育大学付属池田小学校で発生した無差別殺傷事件や2025年5月8日に立川市立小学校で発生した事件(男性2名が学校に侵入)の教訓を踏まえ、実施している訓練です。今回は、不審者が2名が校内に侵入し、教室に向かいながら暴力的な行動を行っていることを想定しています。不審者は一人とは限らないということから組織的に複数の教職員で対応することや、逃げられない生徒が教室を封鎖して命を守る行動を取る方法を警視庁八王子警察署生活安全課防犯係の刑事の方から指導・助言を受けました。

教育活動等について

○ 教職員対象の研修会を実施

令和7年8月27日(水)に八王子中央ライオンズクラブの協力を得て、いじめ防止に向けた研修会を実施しました。

また、令和7年9月18日(木)には本校の保護者の方を講師に、アレルギー対応の研修会(エピペン実技研修)を実施しました。

いずれも生徒の命を守るために行う重要な研修会という認識のもと、毎年開催しています。



いじめ防止研修(ライオンズクエスト)



アレルギー対応研修

○ 生徒会役員選挙

令和7年9月2日(火)に生徒会役員選挙が行われました。写真は立候補者と応援演説者が一堂いる場面です。立候補者からはいじめ撲滅に向けた内容が多くありました。学校生活をより良いに会してものとしたいという思いを全ての候補者から感じ取れました。

選挙は、写真通り、八王子市の選挙管理委員会から本物の投票箱をお借りして、社会科や主権者教育など教科横断的な学びも踏まえて、生徒一人ひとりが投票を行いました。



生徒会役員選挙・立会演説会



本物の投票箱で投票

○ 道徳授業地区公開講座の開催

令和7年9月13日(土)は本校主催の道徳授業地区公開講座を開催しました。今回の道徳授業地区公開講座は1時間目に通常の授業を公開し、2時間目に外部講師を招いた道徳教育に関する講演会、3時間目に道徳授業を公開しました。これまで道徳授業地区公開講座に保護者の方の参加が少ないことが課題となっていました。

講演会を開催することで多くの保護者の方に御参加いただけました。来年度も工夫し、より多くの方が参加できるようにしてまいります。



外部講師による講演会



テーマ:道徳教育で子どもの何を育てるのか

○ 第2学年 職場体験の取組

令和7年9月25日(木)と26日(金)の2日間、2学年では職場体験を行いました。今年度は新しい取組として、職場体験を通して「アントレプレナーシップ」(起業家精神)を学ぶというねらいを掲げて行いました。事前学習では、従来からやってきている学習に加え、「アントレプレナー

シップ推進大使」をゲストティーチャーにお招きしての学年全体授業も行いました。2日間の実地での体験では、初日を消費者の視点、2日目を経営者の視点でそれぞれ課題を考えるということに挑戦しました。また、事後には1年生を招き、体育館をブースに分けて体験先ごとの報告会を行いました。

これらの新しい試みによって、より当事者意識をもって、主体的に、というねらいが果たせたように振り返ります。来年度以降、さらに改善を図り、意義深い取組にしていきます。



職場体験の様子



1年生を招いての報告会

“勉強”から“学習”へ ― 知の喜びを取り戻す

副校長 八重幡 理

今、第五中学校では授業改善に取り組んでいて、私は教室を回って授業観察をすることが多くあります。その度に「今、この教室で生徒たちがしているのは“勉強”だろうか、それとも“学習”だろうか」という視点をもつよう努めています。

“勉強”と“学習”、この2つの言葉はおおまかな意味は同じですが、使う場面は異なります。「今日家帰ったら勉強しなきゃ」とは言いますが、「今日家帰ったら学習しなきゃ」とは言いません。「学習意欲を高める」とは言いますが、「勉強意欲を高める」とは言いません。この2語は、どちらも和製の言葉ではなく、はるか昔の中国で生まれた純然たる漢語で、現代も中国において日常単語として用いられています。

“勉強”は、「勉」と「強」、どちらも「無理にさせる」という意味で、似た意味の字を重ねてできている言葉です。よって、中国においては“勉強”は専ら「無理をする、大変な努力をする」という意味で用いられ、英語の「study」や「learn」の意味で使われることはありません。日本においても元来“勉強”は「無理矢理に行う努力」という意味でした。商人が物を売るときに「勉強しますんで」と言うのは、「私にとって無理な値引きをしますから(買ってください)」という意味で使っているのです。それが、明治時代になって福沢諭吉は“勉強”を「学ぶこと」の意味で使いました。彼の著書でも特に広く知られる『学問ノススメ』では、日本の近代化の実現や独立を守るためには国民が学問に励む必要がある、と説きました。「努力を重ね学問に励む」の意味で“勉強”という語を用い、国民一人ひとりが学問することの重要性を唱えたのです。それ以来日本では、学問に励むことを“勉強”というようになったというわけです。

一方“学習”はどうでしょうか。2年生(教科書によっては3年生)の国語で学習することですが、2,500年前の孔子の言葉として伝わる「学びて時に之を習ふ、また説(悦)ばしからずや」という一節から生まれた言葉です。「師や書物に学んで、そのことを機会あるごとに自分でさらってマスターする、これはなんと喜ばしいことではないか」と孔子は言ったというのです。ここでは“学”は「先生や書物に新しいことを教わる」、「習」は「自分でさらって習得する」という意味で、「この2字が合わされば、こんなに喜ばしいことはほかにない」と孔子は言っています。その2字を組み合わせた熟語が“学習”です。その後、“学習”という語は日本でも中国でも意味がずれることなく永く使われてきました。

以上のように、“勉強”の方は、元来は「いやだけどしなければならぬもの」という意味で、無理に努力する、受動的というニュアンスがあります。一方、“学習”の方は、「楽しいもの、喜ばしいもの」という発想から生まれた言葉で、自分からやる、主体的というニュアンスがあります。

明治時代以来、これまでの日本の学校教育で行われるのはその多くが“勉強”の方でした。基礎的な学習内容の定着が尊ばれ、それらの暗記や再現のために与えられた宿題に取り組む、…。子どもたちは、それがいやでも「やらねばならぬこと」としてやってきました。「学問ノススメ」から150年、その様子が変わろうとしています。学校は、学習内容を教える場ではなく、生徒の学びに向かう力を育む場となっていかなければいけません。その転換はそう難しいことではありません。はるか昔に“学習”という言葉を作った人の発想に立てばいいのです。学びの本質への回帰です。

**ホームページがリニューアルしました！
スマートフォンからも見やすくなっています。**

学校だよりは令和7年度からデジタル配信となりました。
学校ホームページからも見られますので御活用ください。

<https://hachioji-school.ed.jp/dai5j/>

※ 携帯電話・スマートフォンからは二次元コードからの閲覧が便利です。



学校ホームページの
二次元コード